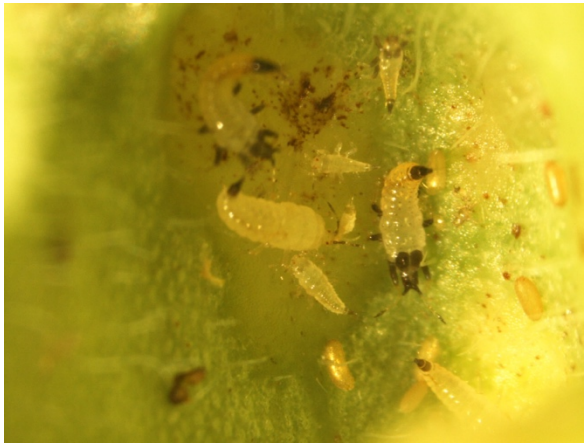


第9回 アザミウマ研究会 要旨集

日本昆虫学会第 85 回大会小集会『アザミウマの食生活と性生活』

2025 年 9 月 15 日 17:00~19:00 東京農業大学 厚木キャンパス



● ネギアザミウマにおける異なる配偶システムの共存メカニズム

工藤達実, 土畑重人 (東京大学 総合文化研究科)

農業害虫ネギアザミウマ *Thrips tabaci* は、有性生殖系統と単為生殖系統が同所的に共存している。このことは害虫防除だけでなく進化生態学的にも興味深い現象である。有性生殖はオス生産に資源を費やすため、Fisher 性比下では集団増殖率が単為生殖の約半分に低下し、ニッチ分割がなければ有性系統は競争排除されるはずである。しかし、繁殖干渉や性的対立のような個体間の相互作用が加わると、競争相手の侵入の阻害や個体群増殖率の抑制によって共存が促されるかもしれない。我々はこれまでに、ネギアザミウマにおいて、単為生殖メスの増殖率が、有性生殖オスからの繁殖干渉によって低下することを実証した。本発表では、メタ個体群構造を組み込んだモデルを構築し、繁殖干渉があれば、有性系統と単為系統がモザイク状に分布することで個体群全体として長期安定的に共存し得ることを示す。理論予測と野外分布パターンの整合性は今後検証する予定である。あわせて、アザミウマ類が多様な繁殖システム進化を探究する有用なモデルとなる可能性についても議論したい。

● アザミウマ形成ゴールに同居するクダアザミウマの食性

中尾史郎（京都府大）・塘忠顕（福島大学）・柴田史音（福島大院）

喜久村智子（沖縄県）・鎌田可奈（JA ひがしみの）

フウトウカズラクダアザミウマとカキクダアザミウマの形成したゴールにはそれぞれフウトウカズラヤドリクダアザミウマとクダアザミウマ未記載種が同居しており、どちらもゴール内の捕食者と考えられてきた。しかし、野外から採集した同居2種の安定同位体比分析を行ったところ、結果はこれらが捕食者であることを示さなかった。ただし、後者は *Ponticulothrips* spp. を捕食することを確認でき、室内ではスジコナマダラメイガの卵やネギアザミウマなども捕食した。一方、フウトウカズラヤドリクダアザミウマの捕食行動は室内実験でも確認できなかった。カキの未記載種は2齢幼虫以降に捕食しなくても羽化可能なことが飼育実験によって確認されており、後者はフウトウカズラのみならず、シイやサルトリイバラのアザミウマ誘導ゴールなどからも発見されている。豪州産種やキジラミ形成ゴールにも言及し、ゴールのアザミウマ群集を通して垣間見える *Liothrips* 属群の採食多様性とその探究について、雑食性の *Haplothrips* 属群との対比を交えて話題提供し、アザミウマの食生活理解の現在地を共有したい。

【連絡事項】

- ★ 第10回 研究会は採集会として開催することを決定しました（2026年＊神奈川）：参加希望者は2026年3月までに事務局へお知らせください。



掲載写真：河村 太さん、土田 聡さん、中尾 史郎 撮影・提供

作成：京都府立大学 応用昆虫学研究室